赤紙を配るのは？

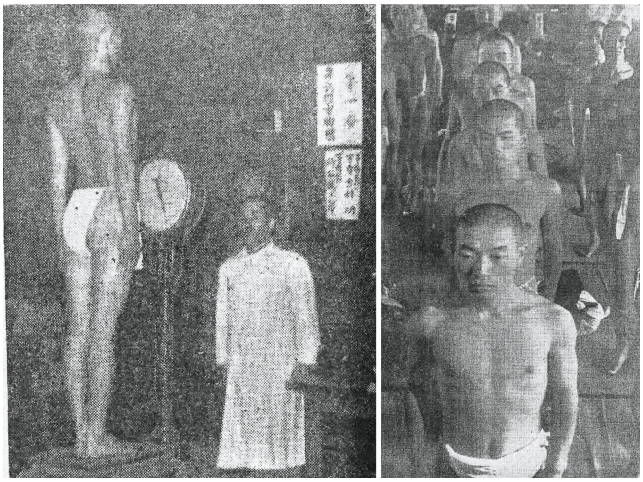


「おめでとう御座います！」玄関先で国民服姿の人物がうやうやしく赤紙を主人公に手渡す。ドラマや映画で良く見るシーンですが、この配達人は郵便局員ではなく、「兵事係」という役場の職員がこの業務を担当していました。ここでは、当時、勝浦町役場に兵事係として勤めていた吉野貴さん（故人：二代目勝浦市長）へのインタビュー内容（平成 9 年）を交え解説してみたいと思います。

兵事係の業務

兵事係の主な業務を列記すれば、

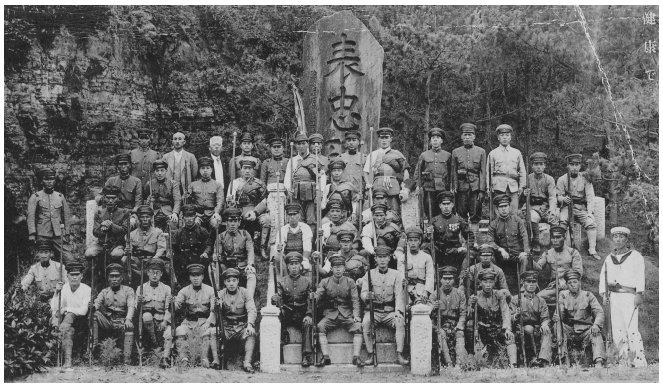
・徴兵検査の支援（対象者名簿の作成や受検会場への引率）
・在郷軍人名簿作成（徴兵検査に合格した者や退役軍人の名簿の管理）
・召集令状の交付（後述）
・戦死のお知らせ
・馬籍簿の管理（後述）等になります。



昭和 18 年　徴兵検査の様子
「写真週報第 297 号」国立国会図書館 蔵

戦前、成人した男子は全員「徴兵検査」を受け、一部は「現役兵」として入隊。病弱な者を除いた大多数は体格や職業・学歴等を登録されて普段の生活に戻ります。吉野さんも昭和 9 年、二十歳の際に受検しましたが、まだ戦争前でもあり、興津町から５５人も受検して甲種合格で現役入隊したのはたった 3 人だけだったそうです。ちなみに吉野さんに対する軍からの結果通知は「第一乙種

騎兵　補充兵として登録」でした。これら徴兵検査後に社会に戻る者と除隊し家庭に帰った者を総称して「在郷軍人」と呼び非常時の予備兵力、つまり徴兵対象者となります。このため、兵事係は常に最新の在郷軍人名簿を整備していました。また、これら在郷軍人は一般生活を営みながら、時折、学校等で訓練を行い有事に備えていました。



訓練時に勝浦小学校で撮影された
勝浦町在郷軍人会　提供：榊田道貴　様

赤紙の発送

巷では兵事係が徴兵対象者を選んでいたと言われますが、実際は前述の軍による徴兵検査の結果を基にした「在郷軍人名簿の作成」及び「令状交付」が業務であり、選出と令状作成は名簿を参照して軍が行うものでした。吉野さんによれば、「○月○日、○時勝浦駅着の列車で○名分の召集令状を送る」という電話連絡が軍から警察署経由で町役場に届きます。召集令状で指定される入隊日時まで間がない場合も有るため、交付は迅速さが求めらました。郵便配達のように一軒ずつ廻っては間に合わず、兵事係以外の部署の応援や、場合によっては日雇いを頼んででも事前に必要人数を確保します。令状発送当日は警察官立ち会いの下、ホームで列車を待ち、受領後直ちに配達に出発したそうです。なお、召集令状は昼夜問わず送られてくる上に、本人、若しくは家族への確実な手渡しが必要とされました。



現在の商工会付近に有った勝浦警察署

在郷軍「馬」？

戦前の日本は自動車が普及せず運送は馬匹頼みでしたが、軍隊も同じで大量の馬を必要としました。そこで人間の徴兵と同じく、各家庭の馬も徴発の対象とされ、市町村役場は「馬籍簿」という台帳を作成し、各家庭で飼育されている馬の頭数や状態の把握に務めていました。また、これらの馬は農耕馬であっても、戦時に兵士が乗っても驚かないよう定期的に訓練する必要がありました。右の写真は吉野さんが引率して飼い主達と共に小湊の誕生寺まで乗馬訓練を行った際の物です。



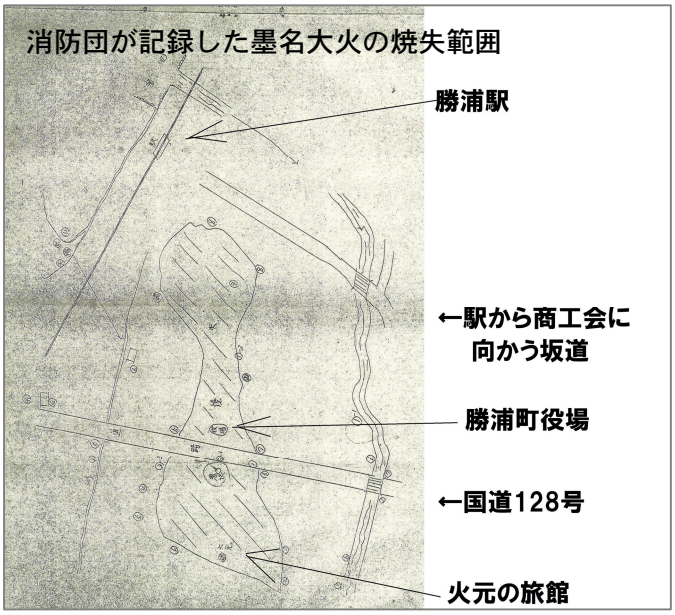
自身も徴兵検査で「第一乙騎兵」とされており、徴兵された場合に乗馬する可能性のあった吉野さんは訓練を共にしていました。



提供：写真上下共　　吉野 稔　様

簿冊の戦後

終戦直後、軍から全国の市町村役場で保管している兵事に関する書類の焼却命令が発せられました。多くの自治体で関係書類の焼却処分が進む中、吉野さんは町民の生死の記録で有る在郷軍人名簿などはどうしても火にくべることができず、こっそり自宅に持ち帰り、戦後しばらく経ってから役場の書庫に戻したそうです。しかし、昭和



26 年 11 月 24 日午前 0 時過ぎ、町役場南側の旅館から出火した火災は風速 25 メートルの強風にあおられ大火災となりました。9 名の死者と 7 9 棟の建物被害を出したこの火災の一報を聞いた吉野さんは、書庫に返納したこの書類のことが頭をよぎったそうですが、その頃すでに勝浦町役場は全焼、この書類も灰燼に帰しました。「このことは、何十年経った今でも心残りだ」と吉野さんはお話されていました。

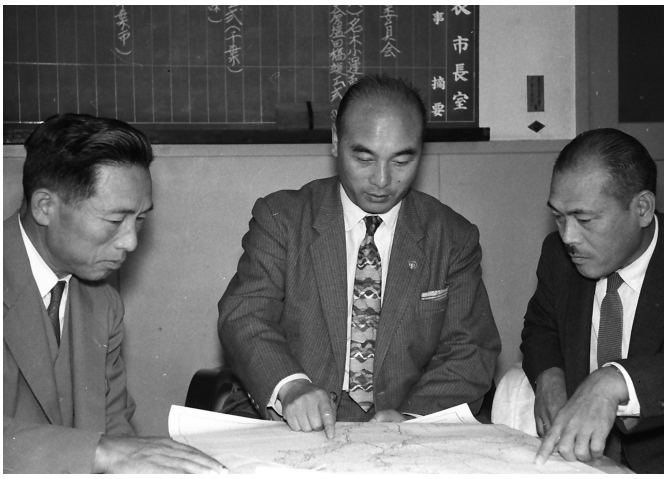
兵事係の苦労

戦局が厳しさを増すと赤紙を配達する頻度が増え業務多忙になるのは仕方ないとしても、まったく別の要件で知人宅を訪ねたのに、玄関先に現れた吉野さんの顔を見て赤紙の配達に来たと勘違いして嫌な顔をされたり、勘違いも甚だしいものでは、終戦後に自宅まで来て「お前のせいで兵隊に行かされた」などと苦情を言われるなど、戦時中に徴兵の仕組みは軍事秘密とされていたから仕方ないとはいえ、兵事係という職務に伴い色々と辛い経験をされたそうです。しかし、ご本人から聞く事は出来ませんでしたが、今回の展示でご紹介している数金康雄さんのように、真摯に兵事係として職務を果たす吉野さんに好感を持つ方が大勢いたというのが実際のようで、後に選ばれて興津町や合併後の勝浦市で首長を歴任されました。



兵事係時代の吉野さん（中央）。勝浦町の徴兵検査対象者を会場の大原小学校まで引率した際に撮影

提供：吉野 稔　様



勝浦市長時代の吉野さん（中央）